



歯科国試  
パーフェクトマスター

# 病理学・ 口腔病理学

槻木恵一・清水智子・坂口和歌子 著

第2版

令和5年版 歯科医師国家試験出題基準 対応

歯科医師国家試験

合格に

この1冊！



医歯薬出版株式会社

# Chapter 1

## 病理学概説・病因論

### Check Point

- ・病理学とはどのような学問か理解する。
- ・病因論を理解する。

## I. 病理学とは

### A 病理学の意義

- ・病気の発生原因，病因の特徴，経過，形態変化，転帰を学ぶ学問である。
- ・ヒトが病気になると病気を発生した組織には形の変化が現れる。その形態変化に基づき病気の診断を行う。病理診断が最終診断になる。
- ・口腔には，数百種類以上の病変が発生し，その理解のためには病理学総論で病変に対する基本的メカニズムを知る必要がある。

### B 6大病変

病理学総論は，6つのカテゴリーに分けられる。

- ①先天異常，②退行性病変，③進行性病変，④循環障害，⑤炎症・免疫異常，⑥腫瘍。

## II. 病因論

病因とは病気の原因のことである。内因と外因がある。

## A 内因

### 1) 内因

個体の内部にある病気の原因。その本体は遺伝子である。

### 2) 素因

病気にかかりやすい素質のこと。

①一般的素因：ヒトに共通して認める素質。

ex 年齢，性別，人種，臓器など

②体質：個人の特性のことを体質という。

ex アレルギー，内分泌など

## B 外因

生体に傷害を与える外的な原因（環境要因）

①栄養障害 ex ビタミン欠乏症

②物理的因子 ex 放射線，機械的刺激，温熱など

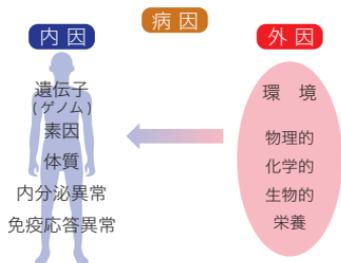
③化学的因子 ex 薬物，化学物質

④生物学的因子 ex 細菌，ウイルスなど

⑤ストレス



**CHECK!** 内因と外因の例を知っておこう！



		アレルギーの発症機序	抗原
I 型	液	<p>抗原</p> <p>顆粒</p> <p>好塩基球</p> <p>1回目</p> <p>2回目</p> <p>平滑筋収縮 血管透過性亢進 粘液分泌亢進</p> <p>ゲミカルメディエーター ヒスタミン ロイコトリエン プロスタグランジン など</p>	花粉, ダニ, 小麦, 牛乳, 卵, 薬物など
II 型	性	<p>抗体依存性細胞媒介性細胞傷害</p> <p>NK細胞 マクロファージ</p> <p>細胞傷害</p> <p>補体活性化 細胞膜傷害</p> <p>赤血球</p> <p>抗原</p>	細菌, 赤血球, 血小板, 基底膜など
III 型	疫	<p>免疫複合体</p> <p>抗原</p> <p>好中球</p> <p>補体活性化</p> <p>細胞膜傷害</p> <p>リソソーム酵素</p> <p>活性酸素</p> <p>血管内皮細胞</p>	細菌成分, 核酸, 免疫グロブリンなど
IV 型	細胞性免疫	<p>マクロファージ</p> <p>抗原</p> <p>ヘルパーT細胞</p> <p>サイトカイン</p> <p>肉芽腫形成</p> <p>キラーT細胞</p> <p>細胞傷害</p> <p>NK細胞</p> <p>マクロファージ</p> <p>抗原</p> <p>感染細胞</p>	結核菌やウイルスに感染した細胞, 移植細胞, 腫瘍細胞など

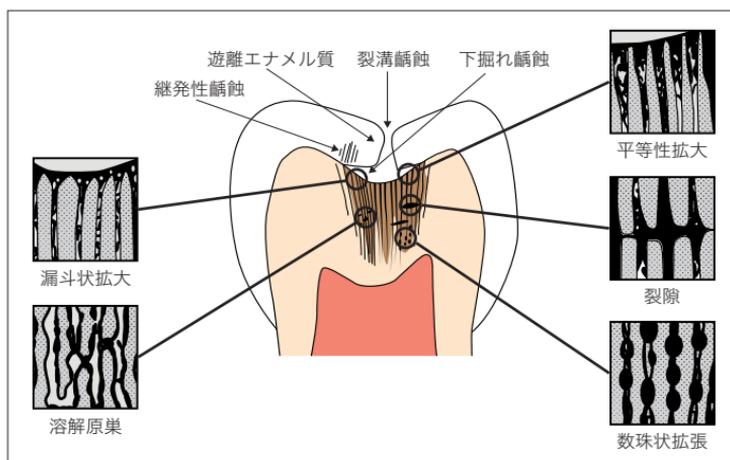
免疫異常

## 2) 層分け

- ・表層から崩壊層，細菌感染層，脱灰層の3者を合わせたものが，いわゆる軟化象牙質である．軟化象牙質は，象牙質に含まれる有機基質が齲窩内に残存するために生じる．
- ・脱灰層は細菌感染を伴わないため，再石灰化を期待し，保存することが可能である．
- ・透明層（象牙細管の均一な石灰化）と不透明層（象牙細管の不均一な石灰化）の2層は硬化象牙質とよび，脱灰標本では観察できない．硬化象牙質は慢性齲蝕，咬耗，摩耗で顕著に形成される．

## 3) 象牙細管の変性像

- ①漏斗状拡大，平等性拡大：無機成分は管周象牙質から破壊されるため，象牙細管が拡大するようにみえる．
- ②数珠状拡張：象牙細管へ細菌が浸入し，脱灰がエブネル線に沿って局所的に破壊され，数珠状となったもの．
- ③裂隙：脱灰がエブネル線で象牙細管と直角方向に生じ亀裂となったもの．
- ④溶解原巣：三次元的に破壊が進み形成される．



象牙質齲蝕牙細管の変性像

② 良性上皮間葉混合性歯原性腫瘍

③ 良性間葉性歯原性腫瘍

## 2) 悪性腫瘍の分類

① 歯原性癌腫

② 歯原性癌肉腫

③ 歯原性肉腫

## II. 良性上皮性歯原性腫瘍 よくでる

### A 概念

- ・ 歯原性外胚葉に由来するので、歯の硬組織を形成することはない。

### B 種類

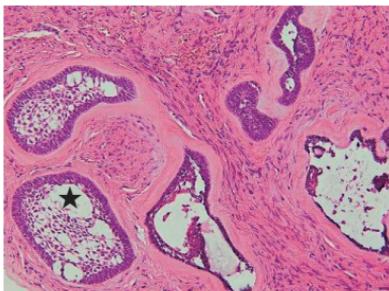
#### 1) エナメル上皮腫 (通常型)

##### 臨床所見

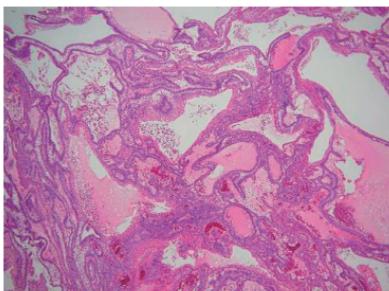
- ・ 局所浸潤性で再発傾向が強い。
- ・ 下顎臼歯部に好発する。

##### 病理所見

- ・ エナメル器に類似した腫瘍胞巣の増殖を示す**濾胞構造**と網目状に増殖する**叢状構造**がみられる。
- ・ 腫瘍は、エナメル芽細胞に類似した高円柱形細胞の**柵状配列**を認め、内部はエナメル髓様構造(前図★)を示す。



濾胞構造



叢状構造